

# ハート・オブ・ゴールド



2008年7月1日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局

本部 〒701-1213 岡山市西辛川 872-2

T&F 086-284-9700

メール:hginfo@hofg.org

URL : <http://www.hofg.org/>



## カンボジア王国小学校体育科指導書作成支援事業 (JICA 草の根技術協力事業)

2007年度の主な活動は、先に完成した指導要領を元に、教師用指導書の作成を支援することでした。

資料収集や人材育成といった基盤整備とメンバーの理解度を重視したスケジュール管理を行なったことが功を奏し、教育省の担当者が指導要領、指導書を作成する全行程を手がけたため、彼らにとって大きな自信につながったと思われます。

具体的な活動としては、①体力測定 (PFT) の実施及び測定結果の回収。PFTを本事業の拠点校で継続的に実施するための年間行事管理者 (統計担当) の訓練実施。②教師用指導書に必要な "保健・体育科理論"、"年間指導計画、単元計画、指導案"、"教材案と指導のポイント"を

作成するための各草案及び最終草案の作成。③指導書協議会の開催とモデル校の選定。④モデル校に対する "簡易スポーツ施設の設置" と拠点校体育教員に対する "指導書を使った授業の実務講習会 (指導書合同指導会)" の開催。⑤拠点校での教師用指導書を活用した保健体育授業の実施、などが挙げられます。

今後は、指導書を使った授業を導入している拠点校の巡回フォローアップ指導と実態調査、そして、必要に応じた指導書案の改訂を行うこととなります。また、最終的には、指導書案を使用した授業の効果と今後の方向性を示唆した提言書を作成し、教育省の担当事務次官に提出する予定です。

## アンコールワット国際ハーフマラソン 2008

2008年12月7日(日) 開催

主催：カンボジアオリンピック委員会、カンボジア陸上競技連盟

主管：カンボジア陸上競技連盟

運営：アンコールワット国際ハーフマラソン組織委員会・実行委員会

特別運営協力：NPO ハート・オブ・ゴールド、NPO 日本医師ジョギング連盟

後援：カンボジア王国政府・在カンボジア王国日本大使館・アジア陸上競技連盟・独立行政法人国際協力機構ほか (予定)  
種目は、ハーフマラソン(男子/女子/車椅子)、10km ロードレース(男子/女子/義足)、5km ロードレース(女子)、3km ファンラン(オープン)。

12月6日(土)には、アンコールワットウォーキング、バイクラリー・バイクレース、前夜祭をプレイベントとして開催。

※アンコールワット国際ハーフマラソンは、AIHM 改め AWHM と記します。

エントリーは、2008年7月より開始 公式サイト <http://www.angkormarathon.org/>  
参加募集中。HG 公認ツアー、協力ツアーもあります。

## HG むつみ日本語教室から2人目の留学生

私は3月25日に日本に来ました。私は2002年11月  
からチェイ、ハク睡日本語教室で日本語を勉強して  
5年くらいになります。その結果留学生の二人目として  
岡山学芸館高校で勉強しております。私は日本に  
来ることができてとても嬉しかったです。これらは全部  
皆様のおかげです。おかげさまで。今は学芸館  
高校で勉強と部活を毎日楽しくやっております。  
日本の生活も高校生活もだいたい慣れて来て  
友達も少しづつできています。そんな早く慣れて来たのは  
スライミーが色々教えてくれたからです。これからもスライミー  
と仲良くして元々張って行きたいと思っております。でも  
スライミーは8月にカンボジアへ帰るのでその時から一人  
なので寂しいかもしないですが...元々張ります。今年の  
目標は日本語能力試験の2級に合格することと友達  
を作ることです。私の将来の夢は看護婦になりたい  
です。できれば日本で看護婦の勉強したいと思っ  
ております。皆様方にも心掛けていただきたいと思います。  
あります。これからもよろしくお願ひいたします。

08.5.30 ソン・ソッキア



スライミー(左)と  
ソッキア(右)

スライミーさん  
に続いて、ソ  
ン・ソッキアさんが  
4月から岡山学芸  
館高等学校に留学  
中です。現在2人  
は、同校の寮で生  
活しています。

## HG CYA-JYA

### (HG 青少年大使) 活動

2007年度事業は、「ワークショップ」、  
「フィールドワーク」の2部で構成し、前  
者は「ものづくり」を通じて協同性を高め  
ることを目的として、後者は「カンボジ  
ア人の心の習慣」を理解するためのツール  
として行った。また、現代カンボジアにつ  
いての理解を深めるために、ツアー前後  
に9回のレクチャーを実施した。

### 「自然環境と暮らしとの つながりを考えよう」

2008年2月20～27日までシムリアップ  
にて、HG JYA10名が活動。

NCCCでは、子どもたちとプランター制作と  
巾着袋を作った。すずめの学校、チェイ小学校  
では、保健衛生指導のほか、日本、カンボジ  
アの遊びを互いに紹介しあった。また、るしなの  
協力を得て、トンレサップ湖でのフィールド  
ワーク、インタビュー調査を行った。

### 「ラクロス メイクス フレンズ イン カンボジア」

2008年2月29日～3月9日、プノンペンにて  
HG CYA-JYA 各14名が活動。

材料探しから完成に至るまで「カンボジ  
アでしか創ることが出来ない道具作り」を心が  
け、ラクロスのクロスとゴールを制作し、それ  
らを使い、ルールを覚え、練習、試合を行った。

Beoung Trabek 高校、Arikhsath 中学校にて  
試合を行い、最後に2つの学校を招いてラク  
ロス大会を開催。ラクロスがカンボジアで行  
われたのは史上初ですが、皆すぐに上手にな  
り、ゲームでは高校生・中学生チームがHG、  
JICAチームに勝ってしまうほどになりました。

JLMMの協力を得て、ストウンミエンチェ  
イゴミ集積場でフィールドワーク。



## ソカーさん、ご結婚おめでとございます！



HG むつみ日本語教室の松尾先生  
とHGASIAの高道が出席しました。

5月29日、バンテアイスレイの敷キ  
ロ手前にあるソカーさんのお宅では、  
早朝からお祝いの方々を訪れていて、  
6時30分にはハエット・チョムモーン  
(花婿行列)が始まりました。

これは花婿からのお土産(豚の頭  
やフルーツ、野菜、ビールなど)を、  
参列者が手に持って、花嫁の家まで  
行列になっていくという儀式です。  
そのお土産を手に会場に入り座る  
と、結婚式の進行の方々がお面白おか  
しく掛け合いをしながら、参列者か

らお土産の品を少しずつ集め、花  
婿の代理のような形で花嫁の両親  
に手渡します。

その後おかゆが振舞われ、8時か  
らチョムナンダイ(婚礼の儀)が行  
われました。これは花嫁花婿の手  
首に親族や参列者が赤い糸を結ん  
でいく儀式で、そのときにお祝い  
金を一緒に渡します。(この間1時  
間ほど?、花嫁花婿はずっと前か  
がみの状態で待っていなければな  
らず、きつそうです。)

11時に披露宴が始まり、松尾先  
生が有森代表からのメッセージを  
クメール語で読み上げ、ソカーさ  
んは非常に喜ばれて、とてもよい  
メッセージだと何度もお礼(日本  
語とクメール語)をおっしゃって  
いました。

ソカーさんはきれいに化粧され  
ていて、幸せそうでした。普段無口  
な花婿のオウンさんも終始笑顔で、  
また気遣いもでき、若いながらも頼  
もしさを感じました。お幸せに!

## 《2008年度 HG CYA-JYA》

カンボジア/プノンペン、シムリアップの小学校での環境教育活動(9/8～17)参加者募集中!

## カンボジア人ランナー、かすみがうらマラソン大会に

今年もカンボジアより、セク・オウンさん(43)とモック・ブントゥーンさん(33)が、かすみがうらマラソン大会参加のため来日しました。HG会員の皆さんやスポンサー企業のサポートのおかげで、感謝！感謝！感謝！でいっぱい充実した滞在ができました。2人は、アンコールワット国際ハーフマラソン2007の入賞者で、有森賞として来日する機会を得ました。挨拶より抜粋して、ご紹介します。

### ○セク・オウンさん

カンブチア人民共和国の陸軍広報官として兵士徴募の任に就いていた1985年、同僚の兵士20名を連れて歩いている時、数名が地雷を踏み、その爆発により3名が命を落としました。救助に向かった私も不運にも地雷を踏んでしまいました。

当時の私は、絶望のあまり死を望みました。家族の必死の説得で、自殺という愚かな考えを捨てました。

半年後に私は退院し、家族と暮らすために故郷に戻りました。兄は私の義足をVIに注文してくれました。義足が出来上がり装着した際に、私はVIで働きたい旨を願い出て、それが聞き入れられました。仕事で地方に出向いた時に、私と同じ地雷の犠牲者である現在の妻と出会いました。

1997年12月3日、カンボジア全土をあげて、身障者関連団体が国際身障者デーを祝いました。その時開催された競技会の400メートル走に参加し、第2位となりました。その後、身障者アスリートにスポーツ競技用の義足を提供する競技会で選抜され、マレーシアに行くことができました。そして、今回日本に来ることができました。ハート・オブ・ゴールド、かすみがうらマラソン実行委員会、私を支援してくださる全ての日本人に、そしてカンボジア障害者陸連の身障者アスリート達にお礼を申し上げます。

### ○モック・ブントゥーンさん

私が走り始めるようになったきっかけは、1996年の第1回アンコールワット国際ハーフマラソンでした。

自力でトレーニングした私は、10kmロードレースに出場し、第3位に入賞しました。そして、カンボジア代表選手として、海外の大会に



参加する機会を与えられました。走ることを通じて有名になり、何よりカンボジアではもちろん、外国にもたくさん友人ができたことが私にとっての一番の財産です。

私は8人兄弟の長男として育ち、家はとても貧しく、トゥクトゥクという乗り物の運転手をしていますが、アスリートになって賞金を得ることで、私は家族を支えることができるようになり、家族も喜んでくれています。自分の経験を生かして、将来は陸上のコーチになりたいと思っています。

現在、アンコールワット国際ハーフマラソンは賞金レースではないのですが、私は毎年、走り続けています。賞金レースでなくても、私はこの大会が好きです。この大会に参加することは、喜びであり、年中行事です。

今も毎日、トゥクトゥクの仕事の前後、朝の4時半から6時までと、夕方5時から6時まで、独力でトレーニングをしています。そして、私はあきらめずに練習をして、今回の賞を受け日本に来ることができました。

## 「生きる力と笑顔を、子どもたちに」

～ スポーツを通じた夢づくり

シンポジウム&トークショー～

2月28日、東京・大手町のサンケイプラザホールにて、スポーツや体育教育を通じて、人々に長く引き継がれ根付いていく活動のあり方を考えるシンポジウムとトークショーを開催。

(主催：HG、産経新聞社)

### ○シンポジウム：

有森代表、岡出美則氏(筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授)、松本格之祐氏(現桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部教授)、大橋美勝氏(岡山大学教育学部教授)、山口拓(HG ASIA所長)、支援活動に携わる以上5名のパネリストが、スポーツの大切さ、体育を通じた開発支援の取り組みについて語りました。

### ○トークショー：

栗山英樹氏(スポーツジャーナリスト)と有森代表が、「スポーツを通じた夢づくり」をテーマに、それぞれの立場で子どもたちの夢を応援する対談を行いました。

## 日本・カンボジア交流研修ツアー

1月10日から14日まで、日本・カンボジア交流研修ツアーを行いました。参加者は、カンボジアの現状、国際貢献の在り方を学びたいとの思いで集まった大学教授や教員、会社員の方などです。プログラムは、カンボジア王国小学校体育科指導書作成支援事業で使用するため、日本で集めたボールをカンボジア政府に寄贈することから始まりました。

小学校の現状を見学するため、プノンペンでは屈指のマンモス校を訪問し、シェムリアップでは小さなチェイ小学校の先生方と懇談会をもちました。また、るしなの松本さんからカンボジアの現状についてのレクチャーを受け、NCCCの見学も行ないました。

## ニューチャイルドケアセンター (NCCC)

昨年度、男子寮が完成し、今年度は女子寮の建設に着手しています。居住用の男子寮、女子寮のほか、今後は統合的職業訓練センターの建設を予定しています。写真のように全てが完成するには、たくさんの時間と資金が必要ですが、子どもたちが安心して暮らせる、そして夢を実現させる施設を一日も早く作り上げたいと願います。



NCCC 完成模型図

## ハート・ペアレント (里親支援事業)

ハート・チャイルドも年齢があがり、自立へ向けての支援が重要となってきている。



女子一人は中学卒業後、本人の強い希望により、働きながら高校卒業まで支援の継続をすることにした。僧籍2人は継続して修行中。現在、NCCC建設に合わせて、建築、土木などの技術訓練を3名が受けている。また、モロッポカフェにてアルバイトをしながら職業訓練を受けている女子3名の就業状況は、良好である。統合的職業訓練センター（NCCC）において芸術教科や外国語教育なども含め、様々な職業訓練の方向を模索していきたい。それと同時に、就業にあたっての姿勢形成をいかに促すか等の課題がある。人件費の問題で現地児童指導員を削減したが、日本からのインターンやボランティアの受け入れを行い、生活指導、衛生、日本語教育などを進めたい。

子ども数の減少からコミュニティ協同組合ネットワーク（CCN）（4州に66組合）や地域の貧困家庭で就学困難な子どもを受け入れる旨を連絡中。

## チャン・タウン氏、岡山県技術移転プログラム研修終了

9月8日から2月8日までの5ヶ月間の研修を無事に終了しました。研修中は、優しく気さくな人柄ゆえ、どこに行っても人気者でした。HGが支給した冬服は洗濯し、岡山県から支給されていた自転車は磨いて返却するなど、礼儀正しい素晴らしい方です。

### 「私の研修と日本の生活」

日本は、人口も多く裕福で、近代的施設や高層ビルが建ち並び、とても発展していて、快適で安全なところです。特に、広々とした道路と、便利にスムーズに移動できる電車の存在にとっても驚きました。

岡山での研修は、とても面白く非常に実りがあるものでした。私は、岡山県内の小・中・高等学校や大学、筑波大学で研修を受けました。どこでも温かい歓迎を受け、皆さんが親しくしてくださいました。先生の思いやりや教授の講義にも、とても感銘を受けました。皆さんのお蔭で、私の研修はとても順調に進み、大変嬉しく思います。研修では体育



をはじめ、保健体育の授業に参加し、他の科目も見学しました。多くの生徒達と知り合え、彼らはいつも私に対し友好的でした。スポーツ大会にも参加でき、一緒に知識や経験を分かち合うことができました。先生方や生徒達は、私と一緒にいると楽しそうで、クラスに参加したときもそうでした。私は、いつも給食を生徒達と一緒に

食べ、喋ったり冗談を言いあったりしました。各研修先では、最終日には私のために素晴らしい送別会を開いてくださり、プレゼント交換をしてくださいました。これらはとても楽しく、私の心に一生残る出来事になりました。

訪れた学校や大学にて温かい歓迎を受けたこと、先生が生徒を励まして強いやる気を引き起こしていたことがとても印象に残っています。5ヶ月の日本滞在は、とても

短く感じます。

最後に、このような研修の機会を与えてくださったこと、日本での研修に温かいサポートをしてくださった岡山県庁とHGの皆様にご心よりお礼申し上げます。

## 活動アラカルト

HG を支援してくださっている個人・団体の皆さんの活動をご紹介します。  
皆さん、ありがとうございます。

○おがち総合型スポーツ・レクリエーション・カルチャークラブ「こまちハート・オブ・ゴールド」  
(秋田県湯沢市)

2007年度にこまちハート・オブ・ゴールドが取り組んだのは、『書き損じハガキ回収キャンペーン&文房具・スポーツ用品物資支援』です。7月から1月末まで一般から募集し、市内外から多くの善意が寄せられました。ハガキはHG本部事務局に、物資はカンボジアのチェイ小学校とHGむつみ日本語教室の子どもたちに送られました。この活動の詳しい報告は、こまちハート・オブ・ゴールドのサイトでご覧いただけます。  
<http://aios.city-yuzawa.jp/heartofgold/index.html>

○蟹江あずささん(会員)

バレエダンサーである蟹江さんは、主宰をされている"Class A"の発表会(第1回:2006年8月/第2回:2008年3月29日、両日共に多摩市民会館)で会場スタッフ用として、



HGのTシャツ(黄色、前面ロゴマーク入り)を利用してくださっています。グッズの購入が資金的な支援となり、またイベントで着用いただいたことが、HG広報の助力となりました。

## 活動便り

◇本部事務局

- ・1/10-14 日・カン交流研修ツアー
- ・2/29 大阪教育大学附属天王寺中学校講演(有森代表)
- ・3/21 ハート・ソングス・HG ブース
- ・4/21 大阪教育大学附属天王寺中学校交流会
- ・4/27 百間川ふれあいフェスタ・HG ブース
- ・5/17 ほべつ Arimori Cup マラソン
- ・6/4 天満屋ストア労働組合リンくるカップ・HG ブース
- ・6/25 理事会、総会、10周年記念交流会(岡山)
- ・6/29 HG JYA 活動報告会(京都・近衛サロン)

◇東日本支部

- ・2/3 東京五反田ロータリークラブHG講演会
- ・2/28 産経シンポジウム&トークショー
- ・4/17~21 かすみがうらマラソン招聘ランナー受入
- ・4/20 かすみがうらマラソン大会・HG ブース
- ・4/20 10周年記念交流会(東日本)

◇西日本支部

- ・2/17 HGチャリティ耐寒登山2008  
参加者35名(サポート隊、登山隊含む)にて金剛山登頂。  
募金額は20,865円。
- ・3/2 篠山マラソン・ブース開設
- ・3/16 千里国際チャリティーラン・HG ブース

◇飯田クラブ

- ・4~6月 障がい者支援(障がい者陸連運営支援、ソカーさん自立支援、障がい者ランナー招へい支援)

### 2008年後半 活動予定

7/3	銀座国際音楽祭
7/20	天神祭奉納2008日本国際ドラゴンボート選手権大会
7/26	第31回インターアクト地区大会講演(有森代表)
9/8~17	HG CYA-JYA 活動(カンボジア)
9/13	10周年記念交流会(西日本)
9/14	第2回吹田中の島チャリティバイアスロン&3時間走
10/5	第25回雄勝健康マラソン
11/15	浦安ロータリークラブ・チャリティウォーキング大会
11月	ソカーさん夫妻、訪日受入
12/6	AW H M 2008 プレイベント
12/7	AW H M 2008
12/19	HG X'mas チャリティ・ディナー

## ハート・オブ・ゴールド 10周年記念交流会

設立10周年記念事業の1つとして、各地(東日本・岡山・西日本)で交流会を開催しています。設立より長期にわたってご支援をいただいている方、企業の皆様には、感謝を込めて記念表彰を行なっています。

東日本支部は、4月20日(日)のかすみがうらマラソン大会後に、東京・上野のSea Dragonにて、有森代表、東日本支部リーダーの志澤理事、田代事務局長、アジア地域事務所スタッフの高道さん、チュトラさん、カンボジア人ランナー2名を含め、40名を超える参加者で和気あいあいと賑やかな宴となりました。

岡山は、6月25日(水)に総会終了後、開催しました。HG日本語教室から留学しているスライミーさん、ソッキイアさんや遠方からの出席者もあり、会場の関係でお茶の乾杯ではありましたが、“ぶどうの木舎”の美味しい料理で盛り上がりしました。

残るは、西日本支部の交流会です。こちらも趣向を凝らした企画となっています。多くの皆さんのご参加

をお待ちしています。尚、本交流会用出欠はがきは、西日本エリア在住の会員の方のみ同封しております。それ以外で参加ご希望の会員の方(新規入会及び入会希望の方も可)は、本部事務局までお気軽にお申し出ください。

### ＝西日本支部交流会のご案内＝

日時:2008年9月13日、午後2時30分~5時

場所:川村義肢株式会社・大東工場プレゼンホール

(大阪府大東市御領1-12-1 TEL 072-875-8000)

会費:1500円(茶話会費用)

アクセス:JR学研都市線住道駅下車、徒歩20分・タクシー5分  
お車でお越しの方は、駐車場を完備しております。

内容:受付は、午後2時30分~

義肢義足資料館の見学30分を含む

川村慶(川村義肢株式会社代表取締役社長)・

高橋明(NPOアダプテッドスポーツ・サポートセンター代表)・有森代表の対談